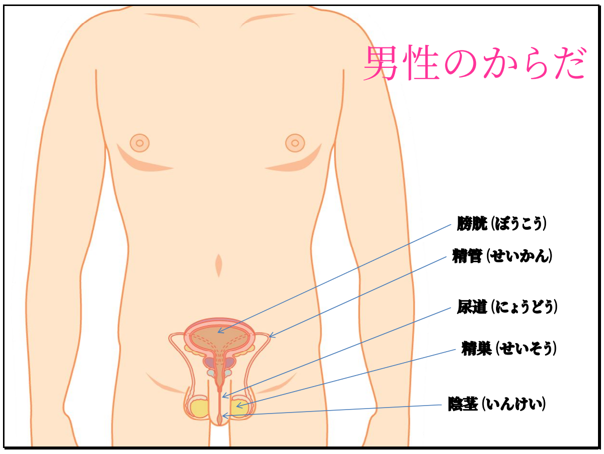
（DVDでは、学生のインタビューと内科医からのメッセージあり）

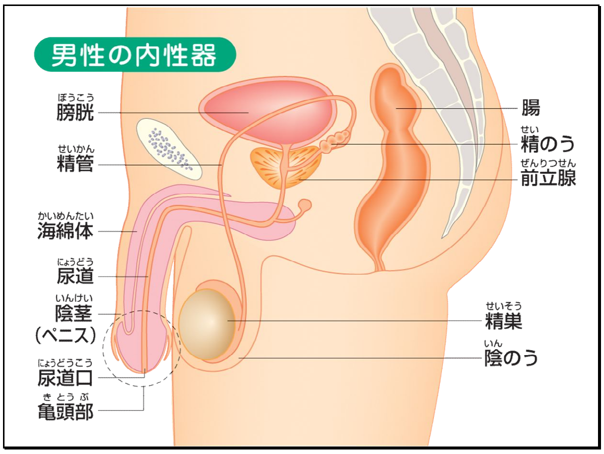
次に男性のからだについて説明します。

（DVD では、学生のインタビューと
内科医からのメッセージ画像あり）



男性の身体では、膀胱（ぼうこう）、精管（せいかん）、精巣（せいそう）、尿道（にょうどう）、陰茎（いんけい）はこのような位置関係にあります。

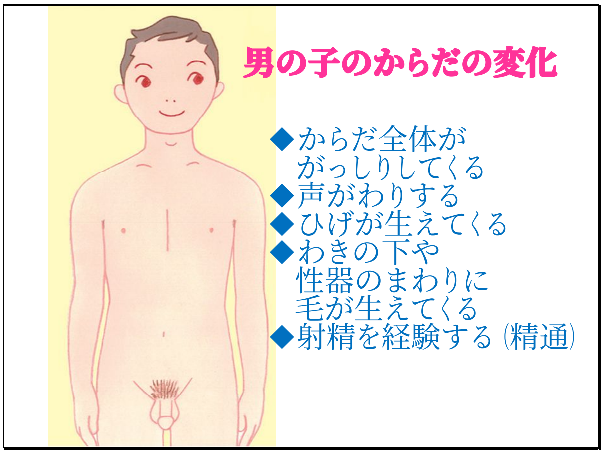
（DVD では動画）



（DVD では動画）

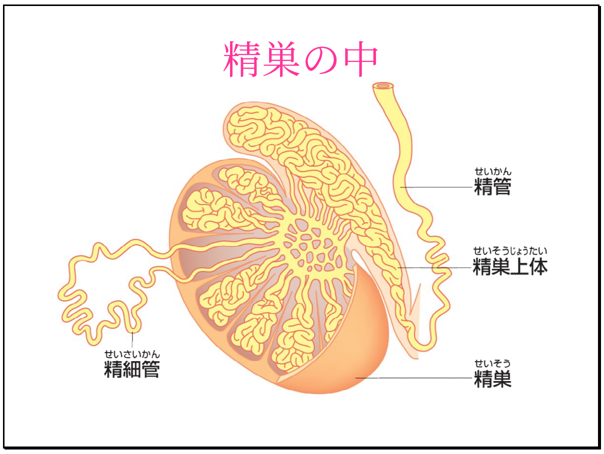
横から見た図です。

腎臓でつくられた尿は、膀胱という袋にためられ、一定量が溜まると排出されます。
この膀胱の真下には、前立腺という男性のみに存在する生殖器が尿道を取り囲む形で存在し、精嚢が隣接しています。
精嚢から分泌された精嚢液は、精巣でつくられた精子と混合して精液となります。



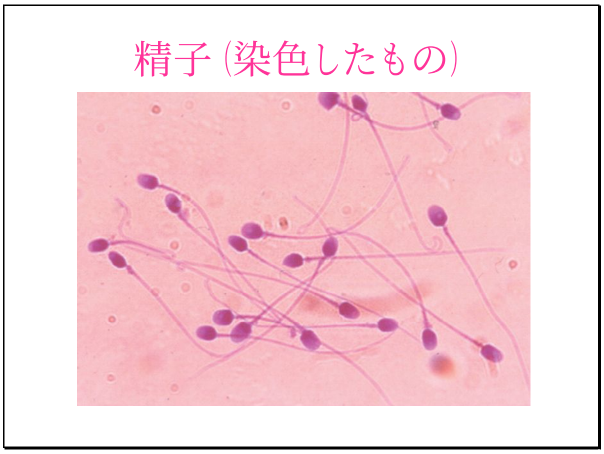
（DVD では動画）

思春期に入ると男性ホルモンにより、骨や筋肉が発達し、声変わりや髭が生えてくる、射精がはじまるなどの変化が出てきます。



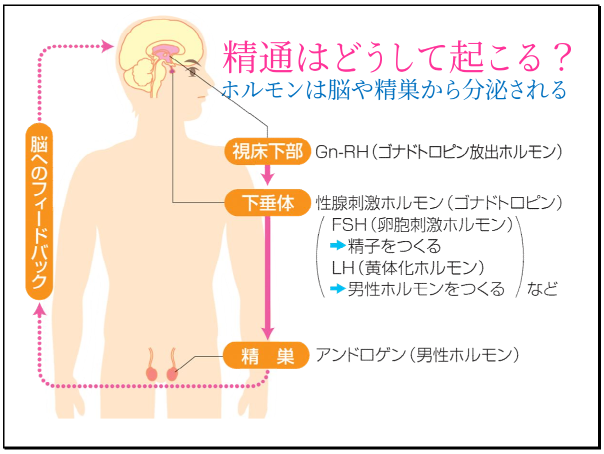
（DVDでは動画）

精巣の中はこのような構造になっており、陰のうの中におさまっています。
精巣の中には、精細管と呼ばれる直径数百μm（マイクロメートル）の管が蛇行しながらびっしりと詰まっており、その管の中で精子がつくられます。
精子は管の中を流れていき精巣の端に集められ、精巣上体へ運び出されます。
そこで成熟して、射精を待つのです。ヒトの場合、精巣上体では最大10億程度の精子が貯蔵できると考えられています。



これは、ヒトの精子を染色して顕微鏡で見た写真です。
一日に作られる精子の数は5000万～1億程度と言われています。
大きさは60μm（マイクロメートル）程で、一回の射精で精液が含む精子数は1億～4億程度です。

精子の寿命は通常の空間では数時間程度ですが、子宮の頸管や子宮内、卵管内などでは数日程度の生存が可能です。



（DVD では動画）

男性も性的成熟に伴い、精液が産生されるようになります。
その調節刺激をするのも、下垂体から分泌される卵胞刺激ホルモンと黄体化ホルモンです。
このホルモンは、女性のホルモンと同じ名前ですが、その働きは異なります。
卵胞刺激ホルモンは精巣に働いて「精子をつくる」役割を担っており、黄体化ホルモンは精巣から「男性ホルモンをつくる」役割を担っています。
この二つのホルモンの働きで、男性らしい体つきとなり、精巣で精子がつくられるようになるのです。
男性の場合も、女性と同じように視床下部からの調節を受けており、フィードバック機構が機能しています。

ペニスについての悩み

- これって包茎？
- 人に比べて小さくない？
- 自分の意思とは関係なく勃起するのはどうして？

（DVD は、すべてイメージ画像で構成）

このような悩みを抱いたことのある男性の方はいますか？
男性のからだも複雑です。
不安なことがあったら、一人で悩んだり我慢したりせずに学校や泌尿器科で相談しましょう。